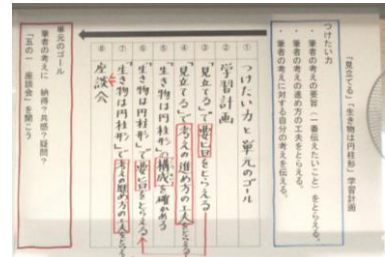


学校名	研究課題	研究手法
馬場小学校	国語	独自カリキュラムの作成

## 1 研究の重点と具体的な取組

### (1) 重点1 つけたい力を明確にした学習課題の設定

- ・つけたい力を明確にし、単元のゴールを見通したうえで、1時間ごとの授業を積み重ねる。
- ・単元のゴールにおいて、どのような力がついたのかを振り返り、学びの実感を積み上げる。



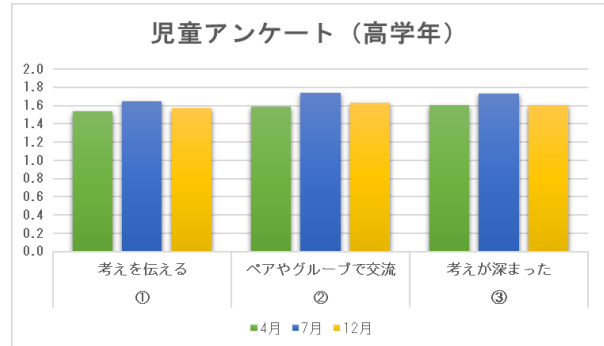
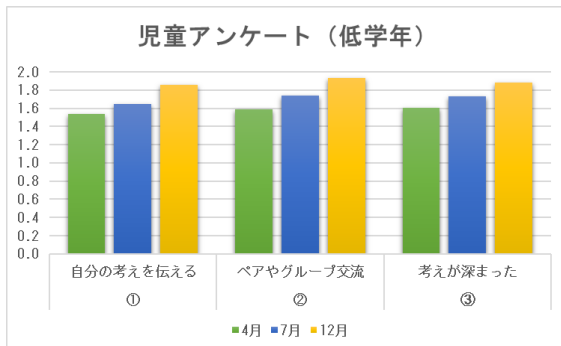
### (2) 重点2 対話の場を意識した授業作り

- ・交流の目的を明確にし、児童と共有する。
- ・目的に合った交流の形を探る。
- ・対話によって変容したり深まったりしたことを意識させる。
- ・「話す聴く」態度を育成する。



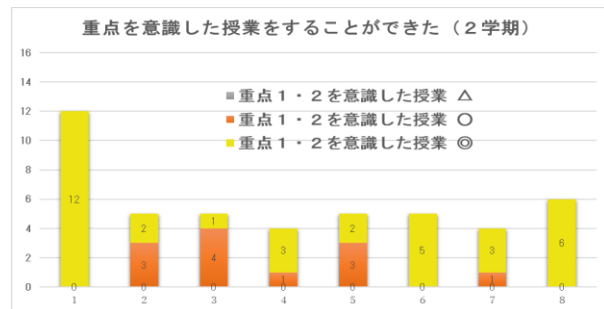
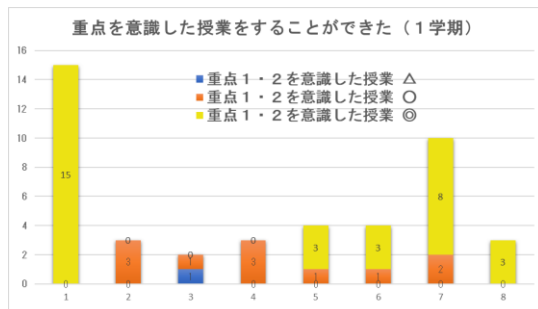
## 2 取組の検証

### (1) 児童アンケート



低学年は、「自分の考えを伝える」「ペアやグループで交流する」「考えが深まった」の項目すべてで数値が向上した。しかし、高学年では、7月までは向上したが、12月には、若干低下した。

### (2) 教員アンケート



8人の教員で取り組んだセルフチェックシートの結果である。1学期は、取組の差が見られたが、2学期は、取組の足並みがそろってきた。

### 3 成果と課題

#### (1) つけたい力を明確にした学習課題の設定

- ・全8回の研究授業を行った。すべての授業において、単元における「つけたい力」を具体的に定義し、そのつけたい力を児童が身につけるために単元のゴールや学習計画を設定した。また、普段の授業についても、2週間に1度セルフチェックカードを使って授業の計画とチェックを行うことで、重点について意識し続けることができた。
- ・児童に「つけたい力」を意識させるよう、掲示をしたり、ワークシートを工夫したりすることができた。児童は、見通しを持って学習することができた。



#### (2) 対話の場を意識した授業作り

- ・対話の場をただの意見交換にならないように、対話の目的を明確にすることの大切さを教員で共通理解し、取組を進めた。右のようなカードを全クラスで使うことで、何のための交流なのかを示すことができた。
- ・研究授業の事前研や事後研において、有効な交流の形について探ることができた。その結果、ペア・グループ、同じ考えをもつ者どうし、違う考えをもつ者どうしなど



と、交流の目的によって交流の形を使い分けることの大切さについて共通理解できた。今後、普段の授業においても、意見が絡み合うような交流にレベルアップさせていくために、教材研究をする中で交流の形を吟味していかなければならない。

- ・対話によって自分の考えが深まったり、高まったりできたかを意識させる方法については、全体で共有することが足りなかった。
- ・本校は、話し合いの基礎が学年によって差があり、「レベルアップ!聴く話す」を使って1か月に一度確認すること、次の月の重点取組事項を決めることで、「話す聴く」力の育成を図ってきた。低学年は「話す聴く」力が身につけているといえるが、高学年は身につけているとはいえない。今後も、授業の中で教師が意識し、児童に示すことで、「話す聴く」力のレベルアップに取り組んでいきたい。

